

待望の明鏡橋がいよいよ開通！

国道287号和合バイパス・明鏡橋開通記念式典
(11月27日：大隅地内)

特集／朝日町の情報化施策
町政スポット／町民栄誉賞授与式・齋藤茂吉文化賞受賞祝賀会
自治功労者表彰式 国勢調査結果速報 ほか
まちの話題 国道287号和合バイパス・明鏡橋が開通 産業まつり
ヤングミセのフリーマーケット大作戦 ほか

あさひまち

広報

2005年12月号
No. 539

ブロードバンドで変わる地域社会



特集●朝日町の情報化施策

夢のブロードバンド社会をめざして

超高速通信回線“光ファイバ”の実現に向けて…

インターネットは、通信回線を通じて世界中のコンピュータが相互につながっている「地球規模のネットワーク」のことで、必要な情報をいつでも手に入れることができるなど、私たちにとって画期的な道具と言えます。仕事においてははもろんのこと、今となっては日常生活や個人個人の楽しみに至るまで、欠かせないものになっています。

例えば、観光情報やホテル予約、チケット購入などでも、ほとんどがインターネットを

広がりつつある？ 情報化の地域間格差

近年、インターネットや携帯電話の急速な普及とともに、一つの情報が瞬時のうちに世界中を駆け巡る、以前は考えられなかった時空を超える情報化社会に突入しています。

しかし、朝日町の場合、その基となる情報通信基盤が全国と比較し乏しいと言わざるを得ません。

このたび、国・県を始め関係機関が一堂に会し、遠隔医療・健康管理システムなどをテーマとして「朝日町をモデルとした地域情報化検討会」を行い、町のブロードバンド計画書が作成されました。

今回の特集では、その計画内容と皆さんからいただいたアンケート結果を元に、町の地域情報化をいかに進めていくかについて考えます。

用語の解説

■ブロードバンド

広い帯域という意味で、ADSLや光ファイバによる高速のインターネット接続サービス。

■光ファイバ

ガラスやプラスチックの細い繊維でできている、光信号の超高速通信が可能な通信ケーブル。

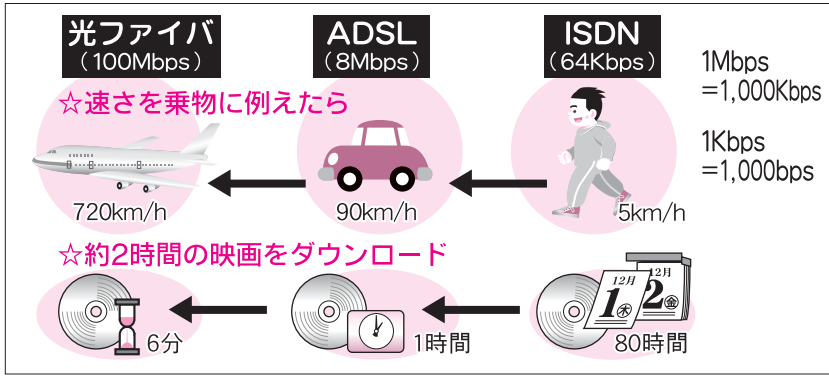
■ADSL

電話回線を利用し、高速のデータ通信を可能にする技術。

■アナログ回線

アナログ信号で音声やデータを送受信する回線。昔からある電話回線を指す。

(図1) 通信のイメージ



利用して情報収集できるようにになりました。
 そして、その情報を伝達する役目を果たしているのが情報通信基盤で、アナログ回線、ISDN、ADSL、光ファイバなど様々な種類の回線があります。しかし、図1のように通信速度がそれぞれ極端に異なるため、インターネット

トの利用環境に大きな格差が生じています。

その代表的な例が、動画(映像)や音声情報を伝達するときに現れます。

以前は、容量の小さい文字情報が主で、そんなに支障を感じることにはなかったのですが、現在は大容量の動画や音声での情報伝達が急増してきています。

ところが、アナログ回線やISDNで動画を見ると、カクカクした動きで、コマ送りのようにしか映らず役に立ちません。動画をストレスなく楽しむには、通信速度が6Mbps(1秒間に送ることのできる情報量)程度は必要と言われていますので、ADSL以上の回線が必要となります。

II 朝日町が抱える課題 II

今回作成されたブロードバンド計画書の中で、本町における情報化の現状と課題が明確に示されました。

まず、低速のアナログ回線とISDNはどの地域でも利用できますが、ブロードバンドといわれる高速回線のADSLを利用できるのは、NT

T宮宿局舎を中心とする半径4〜5キロ程度と、残念ながら、全世帯の約40%の区域に止まっているということですが、特に、電話68局区域(北部地区)は、特殊事情で全域ISDNまでしか使えません。

また、ADSLが利用できる区域内ではあっても、宮宿局舎から1〜2キロ離れるだけで速度が極端に落ちてしまうため、動画に対応できない場合も見られます。ADSLにも限界があるのです。

その一方で、最先端の光ファイバ網が、NTTなどの情報通信事業者の手によって、都市部を中心に商業ベースで整備が進んでいます。県内では山形市など8市の市街地エリアのみが整備されています。

光ファイバ網は100Mbpsの超高速通信回線ですが、整備コストの関係や多くの利用者を見込めない本町のような地方の自治体にとって、情報通信事業者がいつ頃整備してくれるのか、全く見通しが立っていないのが実情です。

計画書では他にも、携帯電話や地上デジタル放送への対応も提起されていますが、都市

部と地方の情報格差、また同じ町内における地域間の格差が、大きな問題になっているのです。

超高速通信回線「光ファイバ」がこの町を変える

本町が抱えている課題を解決するために、ブロードバンドが具体的にどのような形で期待されるのかを、光ファイバ網の整備が不可欠と提案してみたいと思います。

▼インターネットの利活用

- ①企業では、いま電子商取引、商品管理、本社とのテレビ会議などにブロードバンドが不可欠であり、今後の企業誘致に欠かすことはできません。職種によっては、遠くの会社まで行かなくとも家の中で仕事ができるようになります。
- ②農業や商業、観光分野でも、映像などユニークな情報を全国に発信することで、ネット販売などが増えてきます。
- ③日常生活の中では、個人のインターネットの使い方や楽しみ方が飛躍的に向上します。

■ISDN
 電話やファックス、データ通信などを統合して扱う、デジタル化された通信網。

■地上デジタル放送

テレビの信号がデジタル化されることにより高画質、高音質になり、高機能なサービスも可能になる。

■電子申請

家庭やオフィスに設置しているパソコンと行政窓口をインターネットで結び、手続きをネット上で行う申請方法。

■ダウンロード

インターネットなどで、ホスト(親)コンピュータに置かれているデータ(情報)を自分の端末に転送すること。

特に、テレビ電話などは新たなコミュニケーションの輪を広げることになるでしょう。

④町としては、高齢化が進むなかで、テレビ電話を活用した遠隔医療や健康相談、見守りシステムの整備などに、期待が持たれます。また、これらの情報や観光情報など、あらゆる分野の行政情報を提供していくことはもちろん、議会中継やイベントなども映像



遠隔医療などに期待されるテレビ電話



で各家庭に届けることができようになると思います。

このように、ブロードバンドは、単に大量の情報を素早く伝達できる道具ではなく、私たちの経済活動を含めた生活環境を向上させる大きな力となるものです。

▼携帯電話が利用できない地域への対応

今年七月に実施したアンケート結果から、本町における主要携帯電話事業者三社全ての携帯電話が利用できる地域は、一部に限られていることがわかりました。また、一社しか使えなかったり、つながりに

くい、さらには全く利用できない地域も一部残っています。

光ファイバ網が整備されると、携帯電話の伝送路にも利用することができまので、電波を受ける携帯電話基地局（アンテナ）設置費の軽減が可能となり、事業者に対し、設備増強について積極的に働きかけていくことができます。

▼地上デジタル放送の難視聴地域への対応

本町は、テレビの難視聴地域が多く、映りが悪いまま我慢している地区も見受けられる一方で、十三の共同受信施設組合が組織されています。

山形県でも十二月一日から一部の区域で地上デジタル放送が開始。本町は平成二十年に開始の予定となっていますが、共同受信施設更新の問題が指摘されています。

そこで、国では一つの方法として、難視聴地域には光ファイバ網を利用してテレビ放送の再送信を行うことも検討しています。

共同受信施設更新については本町だけの問題ではなく、国や放送事業者の対応を見守ることにありますが、難視聴

自然環境とIT環境の融合 ハイブリットタウンが夢！ 遠藤政智さん(真中)



私は、この夏に関東から朝日町に移り住んだ者です。とは言え、14年前までこの町に住み、高校卒業後関東圏の企業に就職しましたが、Uターンを希望し戻ってきました。こんな私は、『田舎は最高』と思う反面『田舎は不便』と感じています。その理由は、ブロードバンド環境が整備されていないからです。

一般的にブロードバンド環境とは、インターネットのwebアクセスだけでなく、膨大なデータ量となる映像や音楽なども高速で配信できるサービス環境のことです。

都会で生活したことのある私の本音は、大自然に囲まれた朝日町に住みながらも、都心部と同じ環境で生活したいということです。同様に考える同年代層は多いのではないのでしょうか？ブロードバンドの利便性について考えれば限はないですが、一つ都心部の環境に近づいたとすれば、同年代層の若者が近隣の町に移り住む現象の歯止めの一つになるのではないのでしょうか。

いずれにせよ、この環境を利用するか否かの選択は町民にあります。私は町として利用環境の整備は急務としてほしいと願います。

最後に、私が理想とする町は、大自然環境と最新IT環境の相反する2つの環境が融合する町『ハイブリットタウン朝日町』です。

理想的な生活空間の実現に向けて

地域全体の解決策として、放送の再送信を検討していきたくないと考えています。

本町のパソコン世帯普及率は全国平均を大きく下回っています（全国平均が65%に対し朝日町は47%）が、これらの生活環境を実現していくには、パソコンやインターネットの普及がとてども大事で、年

間を通してIT講習会を行うなど、町をあげての取り組みが必要です。

遠く離れた子どもや家族と、テレビ電話で目の前にいる感覚で気軽に話せることで、安心感やつながり感が一層強まるのが考えられ、高齢者の方々にもぜひ使っていただきたいものです。

これまで地方は、豊かな都会との距離を少しでも縮めようと交通網を整備してきましたが、逆に人々まで吸い寄せられてしまったと言えるかも

知れません。

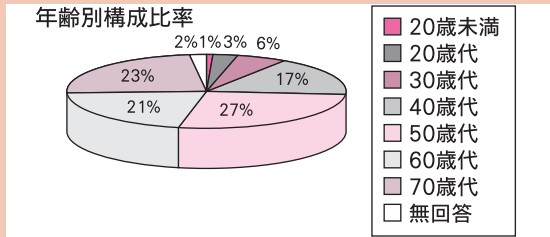
その点、ブロードバンドという高速通信網によって、インターネットが本町でも都会と全く同じ条件で利用できるということは、都会の生活環境をこの地で享受できるということであり、本町にとっても大きな意義があります。

今回のブロードバンド計画全てが、即実施に移されると決定したわけではありませんが、町としては、計画書に基づき着実に実施していきたいと考えています。

情報通信の環境に関するアンケート結果

■調査の概要

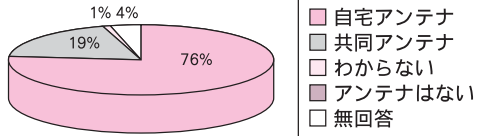
1. 期間 平成17年7月～8月
2. 対象 全世帯（2,391世帯）
3. 回収 1,824世帯（回収率 76.3%）



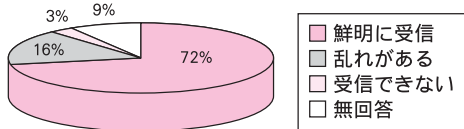
■調査の結果

【テレビ、携帯電話の受信環境】

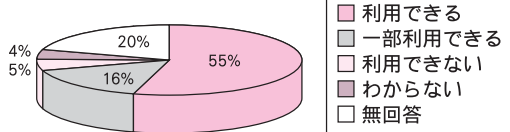
テレビ放送の受信方法



あるテレビ局の映りぐあい



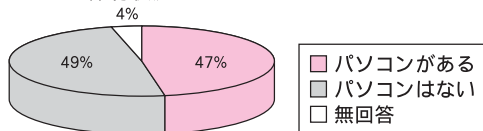
携帯電話の利用環境



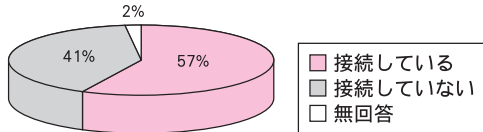
- 共同受信施設で受信している地域は、施設のデジタル化対応が課題として掲げられる。
- テレビ映像に「乱れがある」「受信できない」と回答した世帯は、2割近くに上っている。
- 携帯電話の利用環境では、利用できない地域もあることが伺える。

【パソコン保有、インターネット接続状況】

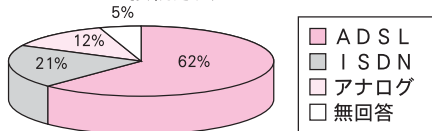
パソコンの保有状況



インターネット接続状況

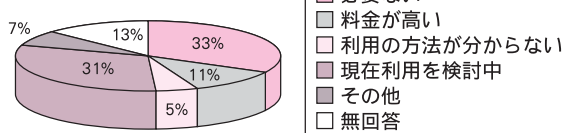


インターネット接続方法



- パソコンは約半数（859世帯）の世帯で保有し

インターネットを利用しない理由

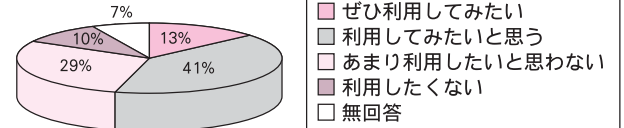


ているが、うちインターネットに接続している世帯は6割にも満たない状況（約500世帯）。

- パソコンを持っていない理由のうち「購入を検討中」が約11%（95世帯）、同じくインターネットに接続していない理由のうち「現在利用を検討中」が31%（109世帯）になっている。

【在宅医療、在宅健康管理のニーズ】

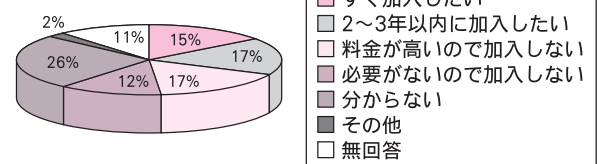
在宅医療のニーズ



- 利用ニーズについては、「ぜひ利用したい」「利用してみたい」と答えた人の割合が、在宅医療で54.2%、在宅健康管理が60.8%を占めた。

【光ファイバ加入の意思】

光ファイバ加入の意思



- 加入の意思については、「すぐ加入したい」、「2～3年以内に加したい」と答えた方の割合は31.9%。
- 料金が低い（5～6,000円と設定）ので加入しない、分からないを合わせると43%に達している。

【町の情報化への意見】

- 賛成・積極意見 … 101件
- 反対・消極意見 … 29件
- その他の意見 … 85件

そのうち…

- ・携帯電話不感地帯解消、地上デジタル関係 … 20件
- ・個人情報保護に関するもの … 12件

※なお、詳しい結果及び情報化への意見については、来年1月から町のホームページ上で全て報告いたします。

町民栄誉賞授与式・齋藤茂吉文化賞受賞祝賀会(11月23日/町農業団地センター)



ご夫婦で受賞を喜び合う阿部宗一郎さん(左)

朝日町で3人目の受賞となる町民栄誉賞授与式が11月23日、町農業団地センターで行われ、齋藤茂吉文化賞を受賞された阿部宗一郎さん(常盤)に、鈴木町長から賞状と栄誉章(メダル)が贈られました。

名誉ある2つの賞の受賞ということで、受賞を祝う会には各界の関係者ら170人余りが集まり、郷土の発展に尽くしてこられた阿部さんのこれまでの偉業を讃えました。



自治功労者等表彰式(12月2日/開発センター)

平成17年度の朝日町自治功労者等の表彰式が12月2日、開発センターホールで行われ、町づくり等に尽力し貢献された次の1団体10個人(賞詞1個人を含む)に、表彰状と記念品が贈られました。

=自治功労=【3個人】

布施國男さん(栄町)

平成6年から通算8年11ヵ月間の永きにわたり、町農業委員会委員として農業振興に尽力され、その間会長職務代理の要職を歴任。町農業の振興発展に寄与されました。

長岡健治さん(常盤)

平成2年5月から14年8ヵ月間の永きにわたり、町農業委員会委員として尽力され、町農業の振興発展に寄与されました。

鈴木信吉さん(大谷四)

平成8年9月から9年間の永きにわたり、町固定資産評価審査委員会委員として尽力され、町税務行政の振興発展に寄与されました。

=教育功労=【1個人】

長岡一美さん(前田沢)

平成7年10月から10年間の永きにわたり、町教育委員会委員として教育行政に貢献され、その間

委員長職務代理の要職を歴任。町教育文化の振興発展に寄与されました。

=産業功労=【1個人】

長岡貞一さん(千葉県大網白里町)

出身地である太郎地区の農業を支える太郎上堰の工事の施工にあたり、多額の寄付をされ農業の振興発展に寄与されました。

=人命救助=【1個人】

渡辺良明さん(大谷二)

平成17年1月14日、近所で発生した雪下ろし中の事故に遭遇され、迅速かつ適切にして臨機応変な救助活動を行い、尊い命を救われました。

=善行褒賞=【1団体3個人】

和田きよさん(山形市)

母校である大谷小学校に多額の寄付をされ、読書好きな子どもの育成に尽力されました。

鈴木久仁雄さん(能中)

多年にわたり、近所のお年寄り宅までの道路やポンプ庫の除雪作業を継続され、お年寄りの幸せのために尽力されました。

能中婦人会(渡辺みさ子会長)

婦人会会員が多年にわたり、多くの観光客が訪れる一本松公園のトイレ清掃や地区内の環境美化活動など、快適な地域づくりに尽力されました。

白田忠一さん(大谷二)

平成3年から15年間の永きにわたり、大谷風神会の会長を務められ、地区内の若者を率いるリーダーとして各種イベントを開催するなど、地域おこしに尽力されました。

=賞詞=

菅井寛之さん(小原)

第60回国民体育大会秋季大会成年男子ケイリンで見事5位に入賞されました。

第25回町りんご品評会 (11月18日／創遊館)

町の特産品である「ふじりんご」の品評会が11月18日創遊館で行われ、鈴木功助さん(大暮山)が最優秀賞に輝きました。



最優秀賞に輝いた鈴木功助さん(右)

厳選された最高級品ばかり123点が出品。丹誠込めて育てられた真っ赤な芸術作品が創遊館フォーラムにズラリと並べられると、館内には甘い香りが広がり、正に朝日の秋を満喫といった感じでした。上位の結果は次のとおりです。

- ▽最優秀賞「山形県知事賞・さがえ西村山農業協同組合長賞・全農山形県本部長賞・山形県共連会長賞」鈴木功助(大暮山)
- ▽優秀賞「町議会議長賞・町果樹組合連絡協議会長賞・町観光協会賞・山形県共連会長賞」渡辺達美(古槇)
- ▽金賞1席「村山総合支庁長賞・町りんご生産対策協議会長賞・山形県農業共済組合連合会長賞・山形県共連会長賞」阿部為吉(常盤)
- ▽金賞2席「村山総合支庁産業経済部長賞・山形中央農業共済組合長賞」小林晴雄(大沼)
- ▽金賞3席「町農業委員長賞」佐藤和春(小原) 敬称略



ハッピープランミーティング中間報告 (12月2日／役場)

今年8月から5回にわたり結婚対策について話し合われた内容が、結婚対策推進協議会(白田忠一座長)から中間報告として鈴木町長に提出されました。

町では今後、その提言を基にしてアンケート調査や専任アドバイザーによる相談など、具体的な結婚支援を行っていく予定です。



平成17年国勢調査結果速報 2005 国勢調査

今年10月1日に行われた国勢調査の結果、町の人口と世帯数が明らかになりましたので、お知らせします。

※下段の数字は前回(平成12年)との比較で▲は減少を意味します。

総数	人口(人)		世帯数(戸)
	男	女	
8,593	4,231	4,362	2,382
▲ 744	▲ 378	▲ 366	▲ 38

注1…3ヵ月以上にわたる出稼ぎや町外への入院、下宿をしている学生は含まれませんので、住民基本台帳の人口とは異なります。
注2…後日、総務省統計局で公表する結果と異なることがあります。

現在進行形 平成のRINGO PJ (vol.2)

月曜日と木曜日の夜にマーケティング手法や商品企画の研修の他、月2～4回はりんご等の農産加工技術の習得訓練を行っています。



「何回かの研修で自分を考えるきっかけができた。何をしたいのか、まだはっきりとした方向は見えないが、これから見つけていきたい」と、このプロジェクトに参加している受講者の一人が感想を語ってくれました。慣れない言葉が頻繁に出てくる中、受講者の表情からはまだ緊張と不安が伺えますが、1ヵ月が過ぎた今、少しずつ軌道に乗り始めています。

課題の明確化が解決の糸口

私たちが、普段気づかず見過しているものの中にこそ、本当の宝(大切にしなければならぬもの)があるのです。

「水と空気と緑を大切に」これは町民憲章の一節です。常に呼吸をしている私たちは、残念ながら、いつも空気の有難さを感じながら生活し

ているとはいえません。ふだん生活している中では、それを渴望するという状況には、あまり遭遇しないからです。しかし、一端そういう状況に陥った場合、私たちは、これなしでは生きてはいけないことを、痛切に感じざるを得ないのです。

「乾き」を感じない状況下で、水の有難さは分かりません。乾きを感じる砂漠の中や、日照りと渇水の状

態が続ぎ断水になり、給水車を待たなければならなくなった時に初めて、私たちは水の有難さを知るのです。少子高齢化の急激な進展。人口減少。財政の逼迫。等々大きな課題が山積する中、私はこれらを一つのチャンスと捉えられないかと考えます。

このまま少子高齢化が進み、人口が加速度的に減少していったら、この地域は一体どうなってしまうのだ

らう。「人口一万人復活構想」を掲げ「やる気」と「挑戦」の意気込みで取り組ませていただいたこの一年、問題を具体的に提起し、町民の皆さん一人ひとりの知恵と「何とかしなければ!」という意識の向上により、この課題は必ず解決できます。また来年も、やる気を持って挑戦します。

朝日町長 鈴木浩彦



昔なつかし ばくだん
産業まつり(11月19～20日)

まちの話題



きのこの菌打ち
産業まつり(11月19～20日)

① 国道287号和合バイパス・明鏡橋が開通(11月27日)



多くの住民らが見守る中でのテープカット



親子三代渡り初め



和合小児童による豊年太鼓



大谷小児童による鼓隊にあわせたカラーガード隊



村山と置賜を結ぶ物流の要 明鏡橋の完成を祝い多くの町民が渡り初め

道路の幅員が狭く車両の往来に支障のあった国道287号明鏡橋の架け替えに伴う和合バイパスが11月27日開通し、待ち望んでいた多くの地元住民らが渡り初めを行いました。

大隅側の特設テント内で行われた交通安全祈願祭には、関係者ら約150人が参加。後藤山形県副知事や鈴木町長のほか、和合バイパス期成同盟会長の白田誠一宿区長ら8人が玉串を捧げました。

開通を祝う記念式典では、和合小児童による威勢の良い「和合豊年太鼓」が会場内に響き渡ったのをはじめ、関係者らによるテープカットの後、

大谷小児童による「鼓隊」を先頭に、菅井正一郎さん(沼向)家族の親子三代に続いて多くの町民らが、渡り初めを行い開通を祝いました。

工事費約17億円をかけ今回開通したのは、大隅～栗木沢の1,005メートル(内橋梁部は115メートル)。平成14年から15年にかけて開通した大隅～小原の約1,700メートルに続く完成で、和合バイパス総距離の約7割の工事が終了したことになります。今後は、平成19年の全線開通をめざして、岩坂橋の架け替えをメインとする小原～前田沢の約1,140メートルが整備されることとなります。

② 東京都杉並区の2小学校でりんご交流会(11月30日/沓掛小学校・桃井第5小学校)



りんごについて説明する井澤組合長(左)

「ハレふじ(葉とらずふじ)」約1,400個贈る

11月30日、東京都杉並区にある2つの小学校でりんご交流会が行われました。子どものうちから本当のりんごの味を覚えてもらい、将来のよき消費者になってほしいという願いで平成13年から実施しているもの。鈴木町長、JAさがえ西村山の今田正夫組合長、町センターりんご組合の井澤寿一組合長らが訪問。子どもたち手づくりの「りんご集会」などで、盛大な歓迎を受けました。

③ ヤングミセスのフリーマーケット大作戦 (11月20日 / 創遊館)



「もったいない！」の原点に戻る

創遊館ホールを会場に11月20日、町内に19支部ある若妻会のうちの14支部が参加し、ヤングミセスのフリーマーケット大作戦が開催されました。

「豊かな現代社会ゆえに今忘れかけている『もったいない！』という気持ちをもう一度原点に戻って考えてみよう」と、町連合若妻会（白石美千恵会長）が主催し初めて実施したものです。

押入の奥などに仕舞い込んだまま、結局使用されることのなかった子ども用の衣類やせとものなどが、各支部ごとに次々と搬入。格安の値札が付けられところ狭しと並べられると、会場は多くの買い物客で賑わいを見せていました。

⑤ ちびっ子探検隊 (11月29日 / わかば保育園)

餅飲みの妙技？にびっくり！

大谷地区は餅を噛まずに飲み込む習慣がある地域。「秋の契約の折りに昔から必ずメニューに上る餅の早食い競争などをやったそのなごりかもしれない」と話すのは堀敬太郎さん（大谷一）です。

菅井建精さん（大谷三）が餅飲みの見本を披露すると、園児たちは目を点にして驚いていました。

遠藤朋ちゃん（栗木沢）は、杵つきのお餅を口一杯にほおばりながら、「やわらかくて美味しいね」と笑顔で話してくれました。



餅を飲み込む菅井さん(左端)

④ 染物体験 (11月18日 / さゆり保育園)

絞り染めの技法を学ぶ

地球に優しいマイバッグの携行を呼びかけようと、県がさゆり保育園に贈った無地色のバッグ。それを黄色や淡いピンク色に染めてみようという試みが11月18日、さゆり保育園で行われました。

バッグの数カ所を輪ゴムで硬く縛ることで、色の付かない部分（＝模様）ができる「絞り染め」という技法を、染師の安藤茂雄さん（松原）が指導してくれました。

早速、完成品を肩にかけ喜び合うちびっ子奥様たちでした。



⑦ 最上一平さんが講演 (11月30日 / 西五百川小)

読書で言葉と心を育てる

西五百川小学校PTA研修会が11月30日、同校体育館で開催され、町出身で東京在住の児童文学作家最上一平さんが「親子と読書」という演題で講演しました。

最上さんは、現代人は自分を表現する力や人と心を通わす力、人を思いやる力などが弱まっていると指摘し、「言葉と心を育てるため読書は欠かせない。子どもに良い作品と出会える場を作ってあげてください。それには絵本の読み聞かせが最適です」と語りました。



⑥ 合格リンゴ贈呈式 (11月29日 / 和合小)

エールを込めて手から手へ

和合小の3、4年生が丹誠を込めて育て上げた合格リンゴ。今年も11月29日、同校を卒業した朝日中3年生7人に贈呈されました。

「大雨が降っても大風が吹いても落ちなかったリンゴ。これを見て頑張ってください」とエールを送ったのは、菅井優衣さん（小原）、大江智美さん（小原）、大野梓さん（小原）。それに対し中学生一人ひとりが、「これをお守りにして頑張ります」とお礼の言葉を述べました。



⑨クリスマス親子料理教室(11月27日/開発センター)

食物の色で栄養を学ぶ

クリスマス親子料理教室が11月27日、開発センター調理室を会場に開催されました。(社)県栄養士会寒河江地区(成原千枝会長)が、高齢者あるいは親子を対象に年1回主催しているもの。8組の親子合わせて20人が参加しました。

赤・黄・緑の食物の色で分けした3つの栄養について学んだあと、デコレーション寿司や“だちょうバーグ”など4品にチャレンジ。茨木奈央ちゃん(緑町)は、「料理をするのが楽しかった。野菜がとってもおいしいです」と話してくれました。



⑧中国料理講習会(11月26日/開発センター)

4000年の歴史の味に挑戦

寒河江西村山日中友好協会が主催する中国料理講習会が11月26日、開発センターで開催されました。管内の市町が毎年会場を持ち回りで実施しているもので、子ども連れや夫婦など町内外から21人が参加しました。

今回のメニューは、3種類の包子(=肉まん)と五目湯、涼拌腐竹りやんぼんの合わせて5品。白田坤恵さん(常盤)海野美幸さん(助ノ巻)白田真名美さん(常盤)を講師に、本場中国4000年の歴史の味にチャレンジしました。



⑩子育て支援のつどい「みんななかよし」(11月25日/創遊館)



支援事業開始から10年

保育園を開放することで未入园児の保護者らに交流の機会をつくり、育児についての意見交換や保育園に関心をもってもらう目的で、平成7年11月にふたば保育園の「なかよしルーム」としてスタートした子育て支援事業。今年で10年目を迎えます。これを記念する子育て支援のつどい「みんななかよし」が11月25日、創遊館ホールで開催されました。

おはなし会ぶなの実(西澤敬子代表)による手袋人形の劇や影絵「てぶくろをかいに」が上演され、園児約200人のほか未入园児の親子約40組の参加者は、大喜びしながらお話しの世界に入り込んでいました。

⑫ふるさとCM大賞審査会(11月15日/山形テルサ)

「忘れられないものがある」

第6回山形ふるさとCM大賞の審査会が11月15日、山形テルサの小ホールで開催されました。作品自体を公募し、出品作1点を選考する新たな試みで望んだ今回の審査会。当町からは、劇団りんご村から(岡崎文彦代表)の「忘れられないものがある」を出品しました。

残念ながら入賞は逃したものの、審査会の雰囲気や他市町村の作品をじっくりと観察できたことで、「来年度はより上をめざして頑張るぞ!」と、決意を新たにしていました。



⑪虫歯ゼロ賞表彰式(11月19日/創遊館)

3歳児32人に賞状と記念品

虫歯ゼロ賞の表彰式が11月19日、創遊館和室で開催されました。3歳児健診対象者の80%に当たる虫歯のなかった32人の幼児たちに、鈴木町長から賞状と記念品が手渡されました。

多かった頃の虫歯保有率は88%。虫歯予防運動の甲斐あって現在は44%にまで下がっていると説明した町歯科医師会の石見静市会長。「組み合わせが大切なおやつは1日2回まで」とも語り、「これからも虫歯にならないようにしまししょうね」と約束していました。



⑬第26回町産業まつり(11月19日～20日/創遊館・町民体育館)



町のあらゆる産業が集結

「21世紀の夢かなえる産業づくり」をテーマにした町産業まつりが、11月19日から2日間の日程で、町民体育館と創遊館を会場に開催されました。町内で生産された安心安全を売りにする農作物を始め、工業製品や商業製品など、町内のありとあらゆる産業が一堂に集結。今年も応援にかけつけ

た宮城県本吉町の物産市には新鮮な海産物がならび、会場を一際賑やかにさせたほか、りんごの即売や地産地消を呼びかける試食コーナー、つきたて餅や緑のプレゼントコーナーには、町内外からの多くの客が列を作っていました。

またこの日は、建築大工として41年の安藤政喜さん(真中)と畳工として50年の鈴木正さん(西町)が町優秀技能者(町長表彰)として表彰されたほか、次の方が町事業振興協議会(葦沢守会長)による優秀技能者表彰を受賞しました。

齋藤小治(大滝=㈱アサヒニクニ) 伊藤寛美(四ノ沢=㈱アサヒ技研) 浅岡幸博(宇津野=村山建設㈱) 細谷忠治(宇津野=大東建設㈱) 海野とめ子(ハツ沼=㈱ヒグチ) 敬称略

⑮ 棚田米PRポスター原図贈る(11月10日/西五百川小)

温もり伝わるわらじも作成

このたび、能中の棚田で生産されるお米をPRしようと、西五百川小学校6年生の児童たちが、ポスターの原図とその同じ藁^{わら}を利用した手づくりのわらじを完成させました。

11月10日、町土地改良区の職員らが学校を訪れ、子どもたちから直接贈呈を受けました。

この日のために、何日もかけて練習したというわらじ。温もりが伝わってくる逸品です。



⑭第26回女性まつり(12月4日/創遊館)

この1年間の成果を披露

女性文化教室で1年間学んできた成果を、一堂に会し披露する場。それが女性まつりです。26回目の開催となる今年も、会場となった創遊館をフルに利用しての発表会となりました。

初心者のための大正琴を始め、リフォーム、着付け、刺し子、踊り、茶道、華道、民謡・歌謡、料理、書道、グラウンドゴルフの各教室に総勢350人余りが精力的に取り組んできた、その成果と言えます。



⑰あとリエマサト版画展

区民らも実際に木版画を体験

町教育研究所立木研修センター(旧立木小学校)を会場に版画家三浦隆典さん(山形市東原町)の個展が開催され、大自然に囲まれた山あいを舞台にした作品など合わせて150点余りが展示されました。

年1回は東京で個展を開くという三浦さん。11月27日には三浦さん直伝「彫り残し法」を使った木版画教室なども行われ、参加した地元区民ら約30人が互いに交流を深めました。



⑱りんごキャンペーン

本場朝日町のりんごをPR

町特産のりんごを都市部の消費地でPRしようと、山形銀行本店前(11月15日～16日)と仙台市(11月24日～25日)で、今年もりんごキャンペーンが開催されました。各会場では、先着100人の方へりんごのプレゼントが用意され、オープンから数分でなくなってしまうというほどの盛況ぶり。試食用のりんごを口にしては、「本場朝日町のりんごは確かに美味しい!」と目を細めていました。



みんな の ひろば



第38回児童文化賞「優秀賞」を受賞



中学生ボランティアサークル きらり

今輝いて

十月二十三日、これまでの活動が認められ寒河江青年会議所主催による第三十八回児童文化賞の「優秀賞」を受賞した、中学生ボランティアサークル「きらり」。平成十一年九月の結成以来、活動テーマに「人々の笑顔のために：きらり」を掲げ、ボランティアをとおして自らもキラキラ輝こうと活動をしています。

現在のメンバーは、一年生から三年生まで十八人。部活動のない月曜日に集まりボランティアをしています。

今年の活動の一つは、さゆり保育園の延長保育の子どもたちと遊ぶ「保育ボランティア

ア」。もっと保育について学びたいという気持ちから、園児との関わり方を学ぶ「保育のことをもっと知ってみよう講座」にも参加し、修了証をもらいました。園児たちの元気な笑顔に迎えられる一緒に遊んでいると、自分が幼い時にどんな遊びを楽しみ、どんな風に遊んでもらったかなど、思い返すこともあるそうです。

また夏には、小学生が参加対象である「お寺まるごと一日体験塾」のジュニアリーダーとなり、身近な相談役として活躍。更に、ふれあい荘の夏祭りや明鏡荘の文化祭では、自分たちも楽しみながら一緒

に活動することで、入所者や来場者の方々に大変喜ばれました。

産業まつりでは、りんごクレープを焼き、朝日町の味覚を訪れたお客様方に振る舞ったほか、ヤングミセスのフリーマーケット大作戦では、バルーンアート（風船で作る動物など）を子どもたちにプレゼントするなどのお手伝いをしました。

「きらり」に参加したきっかけは、先輩の姿をとおしてボランティア活動に興味を持ったこと。「自分たちにできることを考えながら、これから活動も続けていきたい」と抱負を語ってくれました。

毎年メンバーは変わるものの、この六年間、ボランティアへの思いは同じようにつながっているようです。

きらりの活動は、みなさんに支えられながら、これからもたくさんの方々の笑顔につながっていくことと思います。



各種大会の成績

(○内数字は順位)

■山形県中学体育大会新人戦

(11月12日・11月19日)

▽柔道 女子個人44kg級①和田

麻里奈(小原)

▽剣道 男子個人①堀隼聡(中

沢)

▽バスケットボール ②朝日中

女子

■第22回山形県女子駅伝競走大会

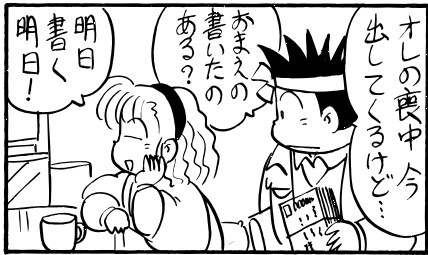
(11月20日)

秋の山形路に健脚を競う第十二回山形県女子駅伝競走大会が十一月二十日、上山市本庄公民館前をスタート、山形市の山形新聞放送会館前をゴールとする全5区間(20・1キロ)で開催されました。

寒河江西村山チームとして当町からは川口愛祐美選手(大暮山)と近藤香澄選手(栄町)の二人がエントリー。第3区の中学生区間で近藤選手が11チーム中4位となる力走を見せました(左写真)。



上山市金瓶地内



太郎
田
美智
香法
さん
さん



二人の出会いは、高校卒業後のOBバスケットの試合。美香さんに一目惚れした智法さんは、すぐに知り合いの先輩に電話番号と住所を聞き、毎日バイト先に通い詰めたそうです。そして決め手のプロポーズは2年前のクリスマス。アクアマリン福島で美香さんにラブレターを手渡した智法さん。「字がとてもきれいで感動しました。合わせて智法ラブシュートも決められましたね」と当時を振り返る美香さん。

仕事が終わると、ミツバチのように真つすぐ飛んで帰る智法さんを、笑顔でお出迎え…。「えっ!」息子の馨太くんと寝ちゃってる!でも、そんな二人の寝顔を見ていると、疲れも忘れてしまうそうです。

将来の夢は、家業の養蜂業を手伝いながら、最高に幸せな家庭を築いていくこと。「子どもをたくさんつくって、バスケットチームを作りたい」とも話すお二人。

「仕事や育児で頑張る美香。いつまでも最高の笑顔でいてください」との言葉に、「養蜂業は重労働なので、体には十分気を付けて、いつまでも優しい智法さんでいてね」と話す美香さんでした。

今月の新刊

おすすめ本!

おらんくの池



おらんくの池 山本一力 著
最強のダイエット、道中疲れを治す秘伝、贈り物の極意、身だしなみの基本、効果的なセールストーク…。借金返済のために作家を志し、人気時代小説家となった著者の日常とは? 元気な爆笑エッセイ。

憤青—中国の若者たちの本音—

沙 柚 著

北京は感情の坩堝だった。人々は日本を罵った。共産党を呪った。不公平を訴えた。反日でも親日でもない一人の女性作家が反日感情渦巻く北京に帰省して、何を見、何を聞き、何を感じたか。

団塊の世代「黄金の十年」が始まる

堺屋 太一 著

団塊世代が時代を変える! 「団塊世代」が一斉に退職する二〇〇七年以降、日本はどのように変わるのか。団塊世代が行くところ、常に巨大な市場あり。「団塊世代」命名作家によるこの先十年の団塊世代論。

▼恋せども、愛せども (唯川 恵) ▼探偵は黒服 (藤田宣永) ▼ニート (絲山秋子) ▼亡命者—ザ・ジョーカー— (大沢在昌) ▼警女の啼く家 (岩井志麻子) ▼かんじき飛脚 (山本一力) ▼新リア王 上・下 (高村 薫) ▼HOKKA I (高樹のぶ子) ▼名こそ惜しめ—硫黄島魂の記録— (津本 陽) ▼虹色にランドスケープ (熊谷達也) ▼外交官の仕事 (河東哲夫) ▼財界とは何か (菊池信輝) ▼そうだったのか! アメリカ (池上 彰) ▼隠居の日向ぼっこ (杉浦日向子) ▼32歳ガン漂流エヴォリューション (奥山貴宏) ▼無事、これ名馬 (宇江佐真理) ▼てのひらの迷路 (石田衣良) ▼ともだちいっぱい (工藤直子) ▼ちかちか家族とおい家族 (今西乃子)

みなさんからのおたよりでつくるコーナーです。

町に対する意見や要望、提案みなさんの周りでの出来事や話題、日ごろ感じていること、イラスト、質問などお待ちしております。

- あて先／〒990-1442 朝日町大字宮宿1115番地
朝日町役場 政策推進課 地域情報係
(電話：67-2112 ファックス：67-2117)
- Eメール／kikaku@town.asahi.yamagata.jp
- URL／http://www.town.asahi.yamagata.jp

町民の声

確実に効果あり からだすつきりセミナーに参加して…



今回セミナーに参加し、案内が届いた時、

「今度こそ、自分の身体を維持していくために参加したい」という気持ちでした。実は、一度健康教室に参加したことがありました。その時は『やろう！頑張ろう！』と思っただのですが、なかなか継続までに至らなかった経緯があります。

しかし、今回は違います。同じ仲間と支え合い、糖尿病予防に向けて頑張れるようになりました。月に一回のセミ

ナーで仲間と話し、「どういうもの食った？体重どうだ？」などの情報交換が、何よりのストレス解消になっています。

七月からセミナーを始め、体重が五キロ減少しました。毎日のウォーキングと間食や

食事の改善が、大きく影響したと思います。今では、歩かないと眠れない身体になりました。歩いた後の爽快感は何とも言えません。夫も時々一緒に歩いてくれたり、家族も

食事に関心を示してくれました。近所の友だちもお茶菓子を制限してくれたり、歩いていると声を掛けてくれたりと周囲

の協力も大変ありがたいです。これからも病気になるらない

ように頑張っていきたいと思っています。安藤秀子さん(杉山)



セミナーには気軽な気持ちで申し込みました。

それが、入院研修での検査結果「境界域糖尿病」と診断され、大変ショックでした。もう、やるしかない！そのよ

うな気持ちでいっぱいでした。昨年まで現職で仕事を頑張っ



てきました。今振り返れば、毎日二合以上の飲酒。四十本以上の喫煙。特に運動することもなく日々が過ぎて行きました。今では、飲酒を半分にした。今では、たばこをやめました。ウォーキングも実施し、こんなに頑張った経験は初めてです。これだけやってきたのだから良い結果が出るはず…、と思っています。

健康づくりは、「忙しいから…」と立ち止まっていては何も進歩しないと思います。きっかけはたくさんあります。あとは、自分がどう受け止め、どう取り組んでいくかが大事だと思います。

岡崎幸雄さん(本町) 今年度の個別セミナーも、残る一回となりました。セミ

ナーでは、「生活習慣病(糖尿病)はどうしたら予防できるか」「普段の生活で何を気をつけたら良いか」。参加者の生活や体調に合った生活習慣づくりを町立病院・保健師・管理栄養士がお手伝いしてきました。セミナー参加者は、これまで六回受講し、自分の食習慣、生活行動を土台から見直し、改善している状況です。参加者の意欲は高く、各々の目標達成に向けて取り組む様子に感動する場面もあります。殆どの方が、体重減少や運動習慣獲得のための目標を掲げており、確実に効果が出ている状況です。評価の血液検査では、殆どの方が血糖値が改善するのではないかと期待しているところです。

この事業は、山形県国民健康保険団体連合会の支援を受けて、平成十八年・平成十九年と継続して行う予定です。健診を受けて血糖値に異常が見られた方。今からの対策がとても重要です。興味のある方は是非！健康福祉課までお問い合わせください。

健康福祉課保健師 太田 律



平成17年(2005年)
■11月1日~11月30日届出



すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
大町	松尾 神那 <small>かんな</small>	女	昭彦・多紀子
大谷五	本間 樹真 <small>まきま</small>	男	秀樹・真紀
雪谷	鈴木 陽奈 <small>ひな</small>	女	誠・貴子
能中	海野 翔 <small>しょう</small>	男	貴弘・真子
下芦沢	岡崎 麻未 <small>あみ</small>	女	兼太郎・千春
古楨	清野 光莉	女	敏幸・志穂



おしあわせに

大井 満幸 (常盤)		土田 智子 (寒河江市)
石塚 公貴 (四ノ沢)		五位野 照美 (東根市)
志田 国伸 (寒河江市)		鈴木 秀代 (松程)
鈴木 敦大 (四ノ沢)		井上 千尋 (上山市)



やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
栗木沢	志藤 チヨノ	修治
小原	鈴木 秀太郎	孝義
常盤	佐竹 とめの	健
松原	松尾 清男	訓
宇津野	渡邊 文子	健太郎
太郎一	長岡 和彦	喜久雄
送橋	渡邊 喜八郎	本人
大谷三	白田 徳	總内

人口と世帯数

- 平成17年11月30日現在
- 人口 8,801人(減3人)
- 男 4,359人(減5人)
- 女 4,442人(増2人)
- 世帯数 2,558戸(減2戸)
- ()内 前月比



トリニティ先生の 英語にチャレンジ!

In America when the harvest is over we celebrate with Thanksgiving. Thanksgiving is celebrated with friends and family. We enjoy a long day of cooking, eating, and talking. It is a day to give thanks to God for everything He has given us through out the year.

With the end of November, the Christmas season begins. In my family, the day after Thanksgiving was the day we would go into the woods and cut down a tree for our house. We would decorate our Christmas tree and have many decorations around the house.



getting x-mas tree with my mother

The first Sunday in December marks the start of Advent. The word Advent means "coming" or "arrival". The focus of the entire season is the celebration of the birth of Jesus the Christ. We reflect on the reason Jesus Christ came to earth. He came to show real love, compassion, and give us forgiveness beyond what any ordinary man could.

This too is a time to get together with friends and family and give each other gifts to show our love and appreciation for them. Many people also give to the needy or volunteer to serve those who are less fortunate. Shopping centers become very busy and often stay open late. Christmas music can be heard everywhere you go, reminding you of Jesus' birth and the season of giving.

With Christmas and New Years so close, we give greeting cards wishing a Merry Christmas and a Happy New Year!

So, to all my new friends in Asahi...
MERRY CHRISTMAS and HAPPY NEW YEAR!

アメリカでは収穫期も終わり、神への感謝をささげお祝いをします。感謝祭は、友人や家族が集まり、料理をしたり食事をしたりおしゃべりをして、ゆっくりとした一日を楽しみます。一年を通して私たちに全てのものを与えてくれる神に感謝をささげる日です。

11月の終わりからクリスマスシーズンが始まります。感謝祭が終わると、私の家では木を切り、森へ行きます。私たちはクリスマスツリーを飾り付け、家の周りにもたくさんの装飾をします。

12月の第1日曜日は降臨節。降臨とは、キリストの出現や到来を意味します。イエスキリストの誕生を祝います。イエスキリストが地球へ来た理由を考えます。神が、人間界とは異なる本当の愛、思いやりを示し、許しを教えるのです。

私たちの愛情や感謝を表すために、友人や家族と一緒にいる時でもあります。多くの人が生活の苦しい人に寄付したり、幸せの少ない人にボランティアサービスをしたりします。ショッピングセンターはたいへん忙しく、夜遅くまで店を開けています。クリスマスの音楽がどこでも鳴り響き、イエスの誕生と奉仕する心を思い返します。

クリスマスと年末がやってきます。私たちは、楽しいクリスマスと良い新年を迎えることを願って、グリーティングカード(=あいさつ状)を送ります。

それでは、朝日町の全てのみなさんに...

メリークリスマス そして ハッピーニューイヤー!

第47回こども県展

県展賞(部門最高賞)受賞作品



花つみは、まちがえて真ん中の花をとってしまった時もあったけど、楽しかったです。りんごの木の曲がっている所をかく時に、バランスがむずかしかったし、花びらを大きくかくのも、思ったよりたいへんでした。色をそめる時は、白っぽい色やピンクっぽい色を作って花をそめて、木はどんどんそめていきました。

わたしの絵が県展賞になるなんて、びっくりしたうれしかったです。これからも、絵をかくのをがんばりたいなあと思いました。

西五百川小3年 小林 桃 さん

春夏秋冬

編集後記

▽待望の明鏡橋がいよいよ開通しました。工期中においても、既に対岸方向の様子を確認できる状態にあったので、ある程度想定はしていたものの、予想以上の快適さに驚いています。開通記念式典に集まった周辺住民らの人数の多さにも驚きました。▽この季節、恋しくなるのが鍋料理。先日、食卓に野菜たっぷりのお水炊きが上り、隣に淡く色を付けた「もみじおろし」が並んでありました。「もみじおろし！」なんていう日本人の感性の良さなのでしょう。

大根と人参をそれぞれおろし、単に交えただけのメニュー。なにも「大根人参おろし」でもないのに、「それをあえて「もみじおろし」と表現したこの感性、凄いことだと思いませんか。枝先にふんわりと積もり、朝陽に輝く雪の中には、小さな指を絡ませた真っ赤な紅葉の葉が、身を寄せ合っていました。まさしく「もみじおろし」そのものでした。

雪間近

郷土の橋に かかる虹

(はやけん)

